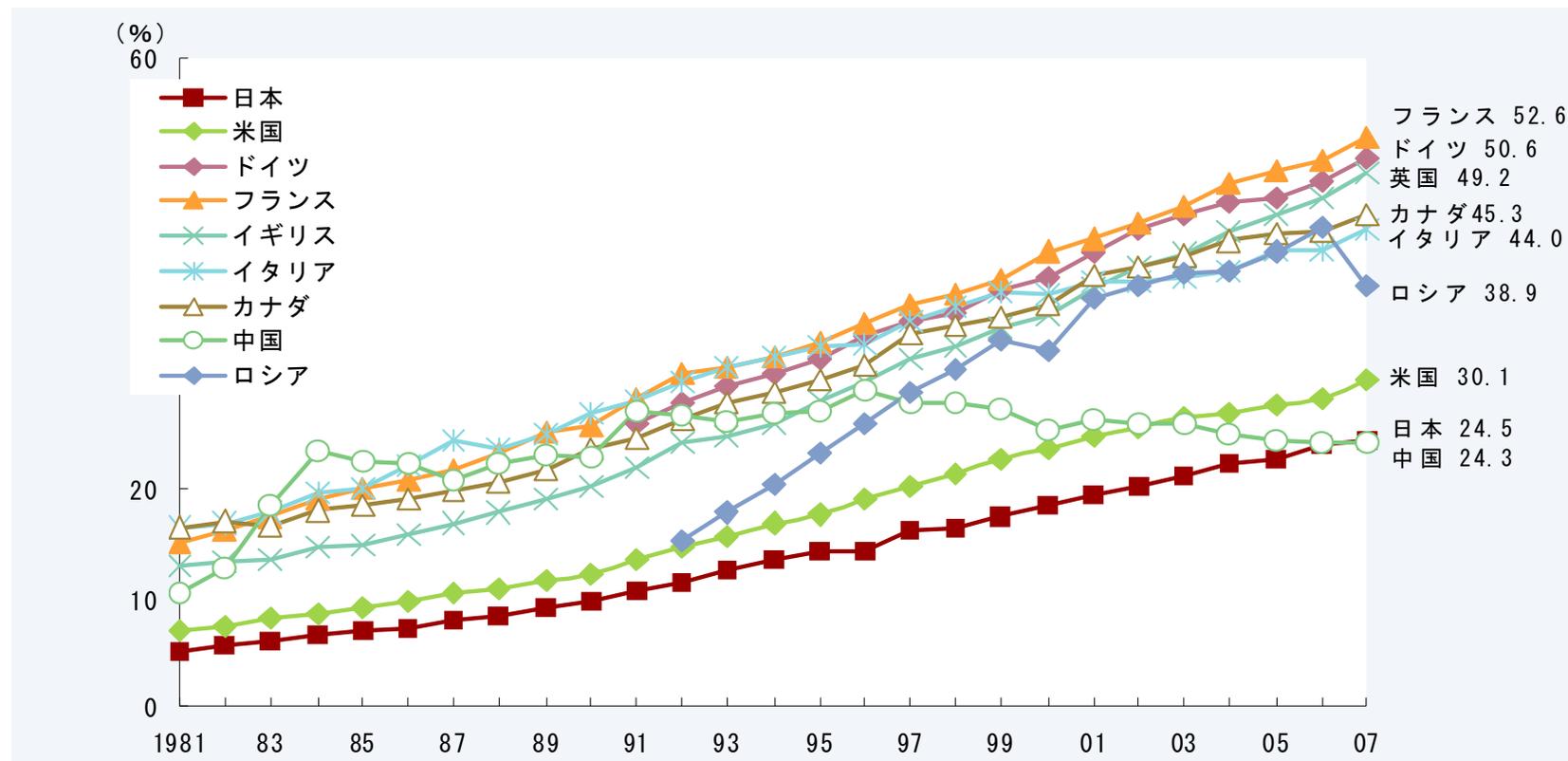


Ⅲ-3. 国際的な人材流動の促進、国際研究ネットワークの強化

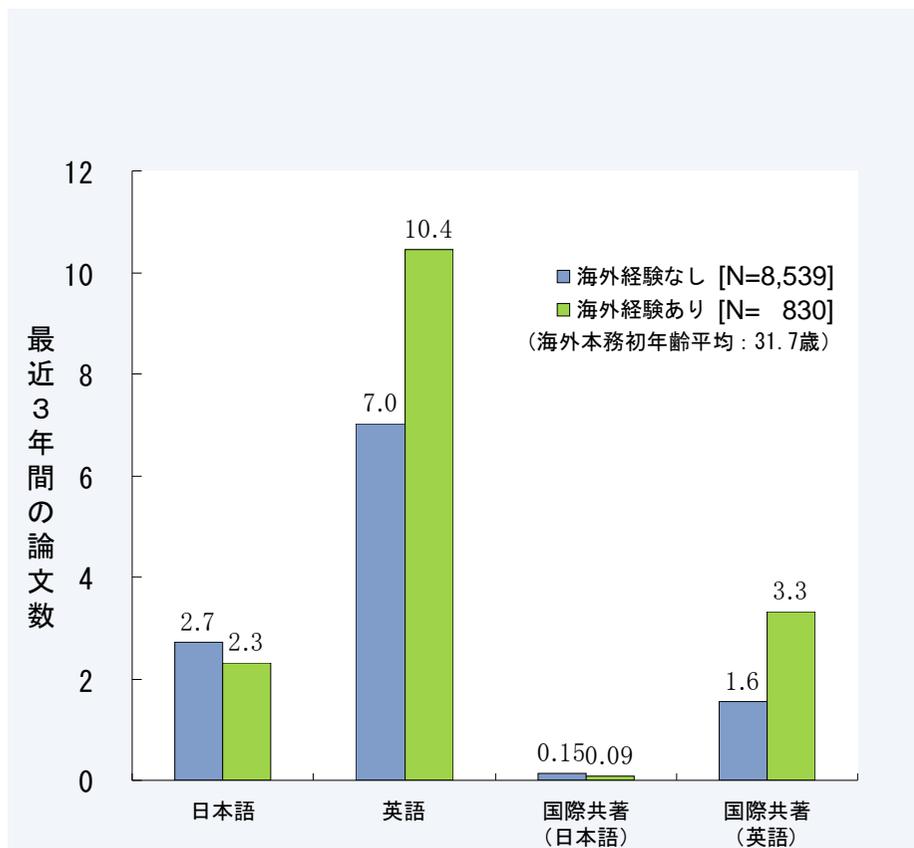
我が国及び諸外国における国際共著割合の推移



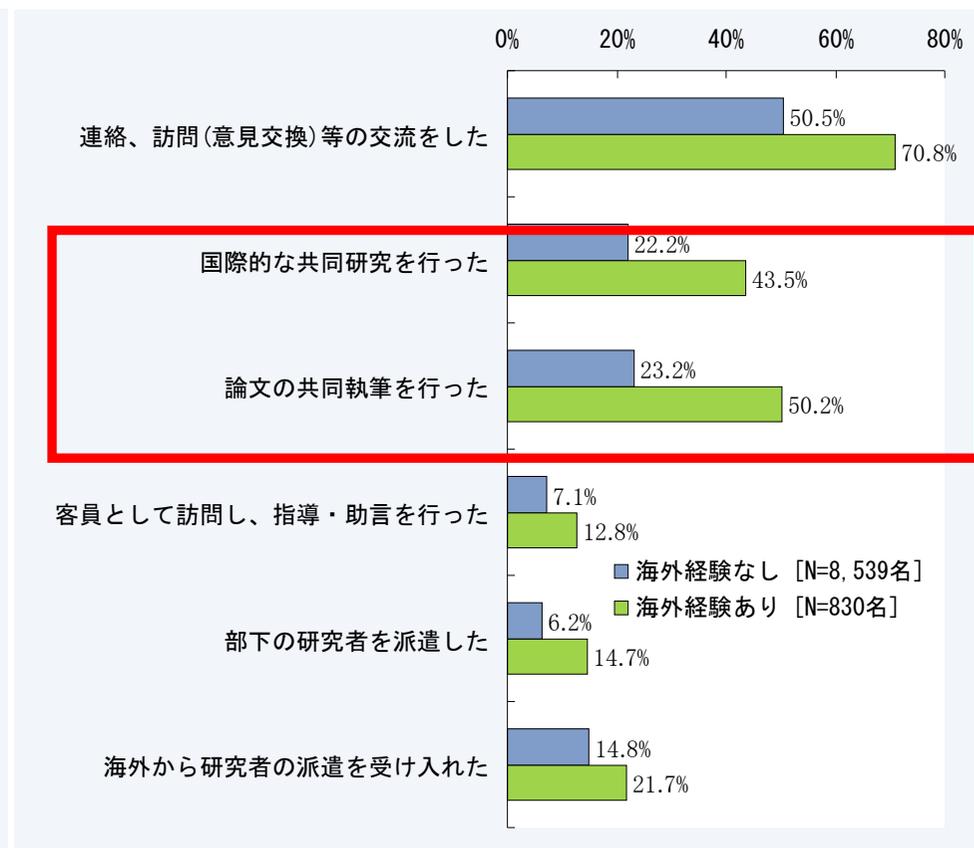
資料: 科学技術政策研究所 「科学技術指標-第5版に基づく2008年改訂版-」(調査資料 No.155)

Ⅲ-3. 国際的な人材流動の促進、国際研究ネットワークの強化

海外経験の効果



海外本務経験の有無と論文発表数



海外機関との研究上の交流

資料: 科学技術政策研究所「科学技術人材に関する調査」(NISTEP REPORT No.123)

Ⅲ-3. 国際的な人材流動の促進、国際研究ネットワークの強化

日本学術振興会国際関係事業 平成21年度予算の主要事項概観

大学等アカデミアからの要請

国際交流を通じた我が国の学術研究活動の支援

国際関係事業全体予算 合計
平成21年度予算額：103.4億円
(平成20年度予算額：109.6億円)

ボトムアップによる事業の実施！

- 海外特別研究員事業
H21予算額 16.0億 (H20予算額 14.9億)
- 若手研究者への国際研鑽の充実
H21予算額 7.4億 (H20予算額 6.4億)

H21予算額 2.8億 (H20予算額 2.8億)

日本人若手研究者のための国際研鑽機会の提供

国際研究交流・共同研究の促進

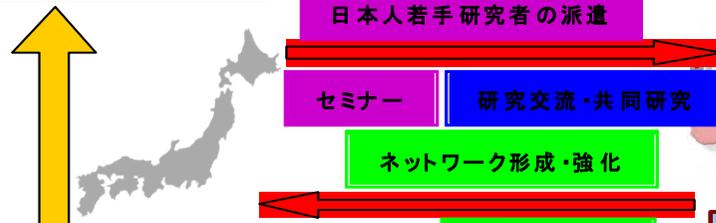
外国人研究者の招へい・フォローアップの取組

各国学術振興機関

在外公館

日本学術振興会 東京本部

対応機関(44か国86機関)との覚書等によるパートナーシップ (H21年10月現在)



(外国人研究者招へい・ネットワーク強化)

H21予算額 47.9億 (H20予算額 53.8億)

H21予算額 4.2億 (H20予算額 6.5億)

H21予算額 0.8億 (H20予算額 0.2億) ほか

国際研究者ネットワークの強化及び若手国際研究者の育成

日本学術振興会 海外研究連絡センター (9か国10センター)

我が国の科学技術外交を推進する基盤の強化！

学術研究活動のグローバルな展開への対応を通じた我が国の国際競争力の強化

- ・海外の学術振興機関との連携、協力
- ・学術の情報発信、情報収集の拠点
- ・日本の研究者の研究活動の拠点
- ・海外における研究者ネットワーク構築

Ⅲ-3. 国際的な人材流動の促進、国際研究ネットワークの強化

外国人特別研究員事業（JSPS）経験者の活躍事例

○ マダリン・エナク氏【ルーマニア】（理化学研究所 2004～2006）

日本での研究滞在後、母国ルーマニアに帰国し、ルーマニアアカデミーの生物学研究所の副所長に抜擢され、現在第一線で活躍中。

○ 景 浩(Hao Jing)氏【中国】（信州大学 2004～2006）

カナダブリティッシュコロンビア大学で博士号取得直後に来日し、信州大学で研究。その研究成果により、2007年に中国農業大学の教授に就任し、活躍中。

○ ジョベル・フェルナンデス氏【フィリピン】（神戸大学 2003～2005）

2014年12月、日本滞在中に医学分野における優れた業績により、フィリピン共和国アロヨ大統領から、“Outstanding Filipino Individual Overseas”賞を授与。

○ Alain Milon氏【フランス】（東京大学 1986～1987）

東京大学理学部でポスドクの後、CNRS研究員としてストラスブール大学で研究に従事。1990年に31歳でトゥルーズ第三大学教授に昇格。2007年に同大学の研究担当副学長に就任、現在に至る。2005年、フランス科学アカデミーより“Charles Dhere”賞受賞。